

腸管虚血性疾患に対する ICG 蛍光法を用いた術中腸管血流評価と意義

■ 研究の対象となる方

2018年7月から2020年10月に当院で腸管虚血性疾患にて緊急手術を受けられた方

■ 目的・方法

絞扼性腸閉塞や非閉塞性腸間膜虚血などの腸管虚血性疾患においては、腸管大量切除が必要となることがあります。但し、腸管大量切除を実施した場合、救命できても短腸症候群となり、術後に低栄養から患者さんのQOL低下を来すこととなります。また、腸管切除後に再度腸管壊死に対する再手術が必要となる場合もあり、術中に腸管壊死・虚血の診断能向上は重要です。

近年、腸管血流評価において、ICG蛍光法という光で血流を判断する方法の有用性が報告されています。ICG蛍光観察を行うことにより、肉眼所見に比べ腸管の血流障害の有無がより客観的に評価可能で、肉眼所見と合わせることで診断の感度が向上する可能性があります。

この研究では当院の手術記録はじめ診療の範囲で取得した情報をもとに、手術時のICG蛍光法の有用性の評価、および病理診断との対比を行い、虚血、壊死を示唆するICG蛍光所見を明らかにすることを目的としています。

■ 実施期間

2020年10月28日から2021年7月31日

■ 研究に使用する情報

年齢、性別、基礎疾患の有無、発症から治療開始までの期間、手術の有無など診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

■ お問い合わせ

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

連絡先	済生会熊本病院 外科 部長 高森啓史（研究責任者） 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
-----	--

以上